

人文学会報

No.74

2015. 3. 17

事務局 鹿児島市下伊敷一丁目52番1号 県立短期大学文学科研究室
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)三〇一―一―

〈研究室だより〉

大英図書館での一日

中谷 彩一郎

ここ三年ほど、夏の二、三週間をロンドンで過ごしている。主な訪問先はイギリスの国立中央図書館である大英図書館（ブリティッシュ・ライブラリー）だ。以前は大英博物館内にあったが、一九九八年に分離してハリー・ポッターでも有名なキングス・クロス駅近くに新たに開館した。ウイリアム・ブレイクの作品に想を得たコンパスを持ったニュートンの巨大モニュメントがある中庭を抜けて入館すると、目に飛び込んで来るのが中央に聳え立つキングス・タワーである。ここにはジョージ三世（一七三八―一八二〇）の旧王室コレクションが収められており、内部は空調設備で温度や湿度が最適な状態に保たれている。タワーのすぐ横には

カフェやレストランもあり、食事をしながら見上げる蔵書群は壮観だ。

日頃私は三階にある稀覯本・楽譜室で、主に十五世紀〜十八世紀頃の印刷本の調査をすることが多い。時には四階の手稿室で中世の手書き写本を見ることもある。どちらもレファレンス用の資料が壁際の本棚にある以外は閉架式で、オンライン蔵書目録で欲しい資料を検索して申し込むと、大抵三、四十分で届く。以前は本

が到着すると使用している机に文字サイズが点灯したものが、故障が多かったせいか今ではパソコンで自ら確認するようになった。宿の部屋からインターネット経由であらかじめ申し込んでおけば、朝図書館に到着する頃には受け取れる。ここに朝十時の開館から閉館する夜八時前まで籠りつきりで調査研究するのだが、学生時代から図書館の周りに人がいる状況で勉強するのが苦手な私でも、なぜか心地よいほど集中でき、あつという間に時間が過ぎ去って行く。便利なのは、フ

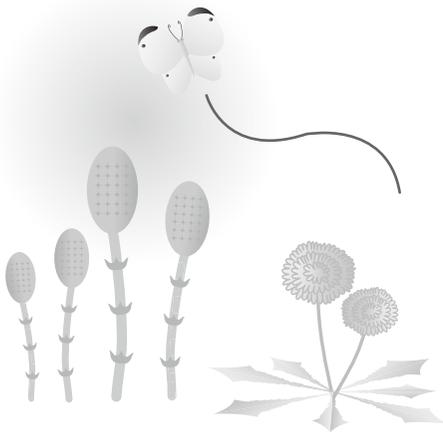
ランス国立図書館やオックスフォード大学のボドリー図書館など他の大図書館と比べ、驚くほどあつさりと貴重本を見せられることだ。昨夏は世界に一冊しか現存が確認されていない古代ギリシア恋愛小説『ダフニスとクロエー』の最初の英訳であるエンジェル・デイ訳（一五八七）を頼むと、他の本同様すぐに出て来た。ところが、二番目の英訳であるジョージ・ソーンリー訳（二六五七）については、キュレーターに理由を書いて提出するよう言われたので不思議に思っていたところ、翌朝ようやく届いた本を見ると、上述した旧王室コレクションの一冊であった。現在では私が調査するような稀覯本の多くがPDF化され、日本にいながら多くの資料を参照することが可能になってきた。大英図書館でも紙の本と電子本を併用しながら研究することも多い。しかし、本の材質、物理的な大きさ、質感、文字の濃淡、臭いなど実物を手に取って見なければわからないことは沢山ある。数百

年の時と対話する喜びが図書館での調査にはあるのだ。

疲れたときには息抜きにギャラリーの常設展を訪れると、図書館が所蔵する貴重書の数々を観ることが出来る。現存最古の新約聖書完本である四世紀のシナイ写本や八世紀のリンデイスファーンの福音書、世界最古の印刷物である百万塔陀羅尼、古代インドの叙事詩『ラーマヤナ』の彩色写本、マグナ・カルタ、ゲーテンベルクの四十二行聖書、レオナルド・ダヴィンチのノート、バッハやヘンデル、モーツァルトらの直筆楽譜もあれば、古英詩『ベオウルフ』の古写本、ジェイン・オースティンの折りたたみ机や眼鏡、チャールズ・ディケンズの手稿、シェイクスピアの戯曲の最初の全集ファースト・フォリオ、『不思議の国のアリス』の原型となったルイス・キャロル自筆本『地下の国のアリス』、ジョン・レノンやポール・マッカートニーによるビートルズの直筆歌詞等々、展示の幅は広い。ライブラリーシヨップには文具やマグカップなどの図書館グッズに加え、所蔵作品の絵はがきやカレンダー、書物の歴史や装幀など書物にまつわるさまざまなテーマの本、さ

らには英米文学Tシャツまであり、本好きの心をくすぐられる。カフェやレストラン、ギャラリーやライブラリーシヨップは誰でも利用可能なので、もし将来ロンドンに行くことがあれば、ぜひお訪ねあれ。

(文学科英語英文学専攻准教授)



〈学外通信〉

忙しいけど
楽しい毎日です。

上園 歩美

私は、この春(編集者注二〇一四年四月)から南日本放送ポニーメイツをしています。ポニーメイツとはMBCのラジオオカに乗って、県内各地からラジオリポートをするのが基本的な仕事です。他にテレビに出たり、中継電波の操作などの技術的な仕事もあります。

私は、小さい頃テレビにでるのが夢でした。当時は単純に有名になりたいという理由でしたが、進路を選択する時期になり、将来について真剣に考えました。そして私は話をすること、話を聞くことで自分の経験値が何倍にもなる素晴らしさに気付き、しゃべりの仕事がしたいと思うようになりました。

短大時代に、夢に一步でも近づくために、担当ゼミの先生に相談しました。すると、開局したばかりのラジオ局へ相談に行くのはどうか?と勧められました。そこで、FMさつま(現FMぎんが)の局

長に自ら連絡し、ボランティアスタッフとして放送技術やしゃべりの基本的な部分を学びました。約三か月の裏方での修行を終え、とうとう番組MCを任されました。週に2日、1時間半の番組を短大卒業まで続けました。学校生活との両立は大変な時もありましたが、ここでの経験は今でも私の自信になっています。

就活は、かなり苦戦しました。県内では短大卒での放送関係の募集はほとんどありません。また、名前の通ったラジオ局への応募の仕方も分からず、就活らしい就活はできませんでした。そこで、仕事をしながらしゃべりの勉強をする予定で、鹿児島県の不動産会社の事務員として働くことになりました。しかし、働き始めてみると覚えなければならぬことや試験などがあり、仕事をこなすので精一杯。それでも、その中でやりがいを見つけ、毎日楽しく働いていました。

そんな中、休日は大好きな釣りをしました。釣りは父の影響で幼い頃からしていましたが、たまたま、上司が釣り好きだったこともあり、船に乗ったり岩場へ乗ったりする本格的な釣りを教えてもらい、その魅力にとっぷりはまりました。

女性釣り師は珍しいと、雑誌にもたびたび載せていただき、今後は釣りの楽しさを広げて行こうという夢を持ちました。そして、運良くキザクラという釣り具メーカーの専属モニターに抜擢されました。これは、休日に行く釣りでメーカーの道具の使いやすさなどを調べたり、鹿児島での釣りの状況を伝えたりする役です。メーカーHP用の動画に出演したり、メーカーのイベント司会をしたりするようにもなり、たくさんの人とふれあい、色々な話をする楽しさを改めて実感しました。

仕事を始めて1年半のある日、家でテレビをつけるのとたまたまMBCがポニーメイツの募集をしていました。契約期間は2年で、テレビやラジオでの仕事、という内容でした。ただ、ちょうど仕事も覚え、落ち着いて働ける環境になっていたこともあり、今の自分に満足して、初めは受けるつもりはありませんでした。それに、どうせ受けても受からないと思いましたが、でも、その時思い出したのが幼い頃の夢でした。「将来の夢」を叶えられる人は、何人くらいいるんだろう……。そう思うと、目の前にチャンスがあるのにそこに飛び込みもしないで諦めてしま

うのは無意味だという気がして、応募することを決心しました。会社にも、想いを話し納得してもらったのでチャレンジでした。

試験に受かった私の一番のポイントは、意外にも幼い頃から釣りをしていたことだそうです。そこで気づいたのは、どんな小さな趣味や特技でも、続けていければそれは強みになるということです。面接で見られていたのは学歴や容姿ではなく、個性ややる気。こうして私は2年勤めた不動産会社を離れ、ポニーメイツとして働くことになりました。

今の仕事の大変なところは、朝が早いことです。日によっては朝の3時半には出社しなければなりません。台風やイベントの時期は特に忙しくなります。そのうえ、担当するコーナーが全て生中継のため失敗が許されず、日々緊張との戦いです。しかし、この仕事の魅力は、季節や旬、話題のものを自分の肌身で感じられるところです。私生活の中では体験し得ないことがたくさんあり、また発見や出会いも多いです。私は今、この仕事にとってもやりがいを感じています。

今後はたくさんの人と出会い、鹿児島

の良さを伝えるとともに、趣味の釣りを生かし、釣りの楽しさも伝えていきたいと思っています。

学生のみなさん、「継続は力なり」。夢を諦めず、果敢に挑戦することを忘れな

いでください。
(平成二十四年三月 日本語日本文学専攻卒業)

「社会に出る」 楽しいことの連続

河野 瑞 希

「辛い」「厳しい」「大変」というのが、私が社会にもつイメージでした。

社会人というのは、言いたいことがあってもぐっと堪えなければいけないのだから、社会に出たら、自分の味方になってくれる人なんてほとんどいないんだろうと考えていました。それは、先に就職した知人の言葉だったり、今まで生きてきた上で耳にしてきた言葉からそういうイメージが作られていったのだと思います。

しかし、実際はそのイメージが全くの杞憂だと胸を張って言えます。社会に出ることは自分でも想像する以上に楽しいことの連続でした。

私の仕事は、出版社での営業です。

本が好きな私にとって、出版社に勤めるということは夢のような仕事ですが、実際に本を作っているのかと言われるとそうではありません。一日の大半は外出て、色々なお店の方に自分の会社の雑誌だったりパンフレットだったり「掲載されませんか？」というようなお話をし、契約を貰う仕事をしています。そして、契約を頂いた分のお客様の記事を作成する、といった次第です。

友人からはよく、「自分には営業職は無理」「よくやれるね」等と言われることがあります。実際に自分でもこの仕事に就くまで、自分に営業なんて無理だと思っていました。毎日お金の話をし、数字で自分の仕事の成果が表されるなんて、そんな辛いことはないと思っていました。けれども案外始めて見ると楽しい発見ばかりであることに気づかされました。まず、自分がお客さんとしてでしか行ったことのなかった飲食店や洋服屋、ホテ

ル等に「取引先」の人として訪問するところが出来ます。それまではお店の提供するものを受ける側だったのがお店に提供する側となり、提供する側の話を聞かせてもらう立場になりました。そうすると、お客として行っていたときには気づかなかったお店の工夫だったりお客様への配慮だったりを知ることが出来ます。そういったものを知ることができると、休日にお客として色々なお店に行った時、お店からのサービスにひとつひとつ気がつくようになります。 「あ、こんなことまで考えてくれてるんだ」という発見が増えると、それまで以上にそのお店が好きになります。そういう風にして好きになっていくお店が沢山増えました。

私が今の仕事に就職できたのは、卒業式寸前の三月初旬でした。就職活動にあまり熱心に取り組んでいなかった私は、年が明けてからようやく焦り始め、二月頃によくやく一社内定を貰えました。そして、合同説明会で面談をした今の会社から連絡が来たのも同時期でした。実は、今の会社の就職試験に私は一度落ちています。

今の会社の採用試験は、まずは合同説

留学で開く世界の扉

福岡美歩

明会で少しだけ話をして、その後会社から連絡を貰えれば面接が受けられるというものだったのですが、携帯電話の故障からか、面接の連絡の電話が、数日後不在着信という形で自分の携帯電話には届きました。慌てて折り返した時には、もう面接が終わって合格者が決まった後でした。電話越しに一生懸命携帯電話の故障を説明するもののなかなか受け入れてはもらえませんでした。

それでも、面接を受けてもいないのに不合格になってしまうのは自分の中でどうしても納得ができません。意地になって、相手の方が「可能性は低いですが、面接を受けるだけで良いのなら……」と言って頂け、急遽次の日面接をさせてもらえることになりました。面接では、しどろもどろで聞かれていたことに答えることすらままならない状況でしたが、「どうしてもこの会社に就きたい」という熱意を買って頂け、採用していただけたことになりました。

駄々をこねて採用試験を受けさせて貰えたものですし、「この会社に就きたい」という気持ちしか自分にはありませんでしたが、それでも採用していただけたこ

とになったので、本気で好きなこと、やりたいことがあるんだったら、どんなに拙くても相手には伝わるのだということ、私は今の会社に教えて貰いました。

社会に出るのは大変、という先入観が世の中には強く根付いているように思います。就職をした今より就職活動の方が私はきつかったです。就職できないかもしれない不安や、就職をした後もきつと辛いであろうという杞憂に挟まれていたあの時期が、今よりも一番辛かったです。

だから、就職活動さえ終わってしまえば、そこさえ乗り越えてしまえば、後は楽しいことが待っているんだということ、を在学生の皆さんにはお伝えしたいです。

就職が終わった方、これから始まる方、まだ終わっていない方、それぞれに不安があると思いますが、絶対に楽しいことが待っているのです、自分を追い込まない程度に頑張ってください。

(平成二十六年三月 日本語日本文学専攻卒業、南日本出版株式会社)



私は二年前、アメリカのウィスコンシン州の小さな街リバーフォールズにあるウィスコンシン州立大学に編入した。もともと英語を話すことが大好きで、留学願望が強かった私は、県短卒業後、迷わず海外留学という選択肢を選んだ。今まで親元から学校に通っていたのに、誰も知らない土地、国に行く不安はあったが、同時に新しいことに挑戦する期待も大きかった。何よりも大好きな英語を毎日話せる環境に身を置けることがとても嬉しかったのを今でも覚えている。もちろん今まで、日本に居たらぶつからなかったような様々な壁にもぶち当たって来た。しかし、その壁を乗り越える度に日本では味わえなかったような達成感と自らの成長を感じている。

留学という経験を通して一番の成長は精神的な成長だろう。自分で選んで来た海外、最初はぶつかる壁の高さ、自分の考えの甘さに絶望したこともあった。初めて親元を離れての生活、慣れない海外

生活、英語で受ける授業に戸惑っていた日々。今でも様々な壁にぶつかることには変わらないが、それを自分で乗り越える方法を知っているから焦らない。そして自分は天才ではないことを知っているから、努力する。今となつては努力出来ることも才能の1つだと思っている。

現在、アメリカに来て、5学期目を迎える。初めて来た時には、英語でのコミュニケーションが上手く行かず毎日のように歯がゆい思いをしていたが、今では自信を持って英語を話せるまでになった。それもこれも家族、友達、先生方の支え、そして自分の努力の賜物だと思っている。

「今あるもの全てに感謝する。」日本に居た時にはあまり持たなかった感情だった。学校に行けること、家族が近くに居ることが当たり前だった日常。今では自分がどんなに恵まれた環境に居たか、そして今もどんなに恵まれているかよく分かる。辛いことも多いのは確かだ。でもそれを辛いか自分成長する為に必要な試練だと捉えるかでは世界の見え方が違ってくる。ピンチをチャンスに出来る人間は強い。私もまだまだだが、自分が今までやって来たことに後悔はない

と胸を張って言える。

今までは、英語が好きという思いだけでここまで走って来たが、最近では将来どんな自分になりたいかという将来像が見えて来た。今では私にとって英語はただの学校の教科ではない。日常生活に必要な不可欠なコミュニケーションツールだ。「英語」。たかが一言語だと思ふ人もいるかもしれない。日本に居たら使わないと。

しかし、英語は自分の世界、そして可能性を無限大に広げてくれる最強のツールだと思ふ。英語だけではない。言語全般に言えることだ。アメリカに来て初めて、自分がどんなに小さな世界に居たか、自分がどんなに外の世界を知らなかったか思い知った。それと同時に自分の母国である日本のことをどれだけ知らないか思い知った。そして日本がどんなに世界の人に愛されているかということも。海外に出ることで日本人であることがどんなに誇らしいことか、そして今どれだけ私たちがこれまで日本人が海外で培って来たものの恩恵を受けているかということも。

今の若い人は昔より確実に海外に出るチャンスがある。そのチャンスを自分の

ものにするかしないかはその人次第。少しの勇気を出すか出さないか。短期間でも構わない。異文化に触れることで世界が変わることを実感して欲しい。私は海外に出ることで日本の素晴らしさを知った。そして今は私のスキルを生かして日本社会に貢献したいと思う。日本はこれから更に成長する。その成長に寄与するために、私たち若者がグローバル化することは必要だと思われる。広い視野を持つことで更に素晴らしいアイデアが生まれると私は信じている。

(平成二十四年三月 英語英文学専攻卒業、
ウイスコンシン州立大学リバーフォールズ校)



社会人になって思うこと

福島 美穂

私は鹿児島県立短期大学を卒業し、今年社会人2年目になりました。現在健康家族で働いています。熊本にあるカスタマ物流部に配属され、お客様へ商品や案内資料の発送業務、また商品や資料の管理を主に行っています。商品の生産や広告宣伝、電話受注などを経て、カスタマ物流部で発送業務を行います。つまり私の働く部署が生産から発送までの流れの最終地点、最後の砦です。

その中で私は5月から製品管理という担当に異動となりました。商品の検品や味覚検査、出庫、在庫の集計や報告書の作成などを主に行う仕事です。入社した1年目の頃は宅急便発送の担当として発送業務を行っていましたが、現在はその発送ラインに商品を受け渡すスタート地点の業務を行っています。働く中で感じることは他部署や本社とのつながりやコミュニケーションの重要さです。まだまだ私は未熟なので先輩社員に助けてもら

うことが多いのですが、担当内、担当外関係なく、全ての部署が連携して動いているのを強く感じます。私自身入社して2年目となり、仕事に対する意識も新人の頃と比べて大きく変わったと思います。一つ一つの業務に対する責任も強く感じるようになり、自分のミスや仕事の遅れで他の担当に迷惑がかかってしまうことを痛感したこともあります。社員だけではなく、職場にはパートさんやアルバイトさんもいらっしゃいます。自分が言われたことをやる、自分の仕事だけをする、では上手く業務がまわりません。私はよく自分の目の前の業務でいっぱいになってしまっているので、広い視野をもつてパートさんやアルバイトさんに明確な指示を出したり声をかけたりすることが今の自分自身の課題です。

毎日が思っていた以上に忙しくわからないことばかりですが、一つ一つ任せてもらえる仕事も増え、今は健康食品を取り扱う業務の管理を中心に行っています。細かな在庫管理をしているので一つでも在庫が合わないとなればすぐに原因を追究します。その日の発送に必要な商品を受け渡すのが遅れてしまうと発送ライン

の開始がずれて全体的に遅れが出てしまうため、時間管理の意識がとても重要です。難しさの中にもとてもやりがいがあります。

2年目になって日々思うのですが、相手に伝わるように伝えること、コミュニケーションをとることはとても大切で、難しいことです。仕事の幅が広がるに連れて、関わる人や依頼される用件も多くなりました。例えば、本社の方や上司からの問い合わせがあったとき、相手の方が何を知りたいのかを理解して適切な回答をしなければなりません。それに確実に報告をすることも重要です。現在の担当に異動して間もないころ、業務の進捗状況を尋ねられたときに状況を把握できていないまま「あとはこの業務をするだけです。」と答えたことがあります。実はその業務は自分が思っていたよりも時間を要するものであり、そのときは業務に遅れが出てしまいました。今思えば「まだこの業務が終わっておらず、このくらい時間が必要です。」という風に報告をすれば、上司にも状況を確実に伝えられたと思います。自分一人で出来る仕事というのは本当に限られています。どん

2013年度 人文学会決算報告書

収 入

前年度繰越金	536,123
人文学会費(教員会費)※	0
〃 (在学生会費)	70,000
預金利息	95
収入計	606,218

支 出

印刷費(「人文学会報」)	42,735
郵送費(『人文』)	13,040
消耗品費	3,781
支出計	59,556
次期繰越金	546,662

※教員会費は2014年度で計上します。

彙 報

◎二〇一三年度人文学会行事日程

八月三十一日『人文』第三十七号発行

二〇一四年

三月十七日 「会報」第七十二号発行

三月十八日 「会報」第七十三号発行

四月十八日 教員総会(拡大評議員会)

◎役員交代

(会長) 土肥

(評議員) 望月、中谷

(事務局) 望月

以上、二〇一四年四月十八日
教員総会(拡大評議員会)にて決定

学園春秋

区分	職名	氏名	異動年月日	備考
昇任	講師	西迫貴美代	26・4・1	生活科学科 食物栄養専攻
採用	〃	岡村 雄輝	〃	商経学科 経営情報専攻
昇任 准教授	篠田 剛	26・10・1	商経学科 経済専攻	

《編集後記》

昨年引き続き、卒業生の原稿をはやくに預かっていたのに、今回も発行が遅くなってしまいました。原稿の「現在」は昨年秋季です。申し訳ありません。

なお、『人文学会報』は原短文学科ホームページ(<http://www.k-kentan.ac.jp/iv/>)で、論集『人文』は鹿児島県学術共同リポジトリ(<http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/>)で公開しています。ときどきチェックしてみてください。

(望月)